

Magic xpi インストール ガイド



OUTPERFORM THE FUTURE™

The information in this manual/document is subject to change without prior notice and does not represent a commitment on the part of Magic Software Enterprises Ltd.

Magic Software Enterprises Ltd. makes no representations or warranties with respect to the contents hereof and specifically disclaims any implied warranties of merchantability or fitness for any particular purpose.

The software described in this document is furnished under a license agreement. The software may be used or copied only in accordance with the terms and conditions of the license agreement. It is against the law to copy the software on any medium except as specifically allowed in the license agreement.

No part of this manual and/or databases may be reproduced or transmitted in any form or by any means, electronic or mechanical, including photocopying, recording or information recording and retrieval systems, for any purpose other than the purchaser's personal use, without the prior express written permission of Magic Software Enterprises Ltd.

All references made to third-party trademarks are for informational purposes only regarding compatibility with the products of Magic Software Enterprises Ltd.

Unless otherwise noted, all names of companies, products, street addresses, and persons contained herein are part of a completely fictitious scenario or scenarios and are designed solely to document the use of Magic xpi.

Magic™ is a trademark of Magic Software Enterprises Ltd.

Btrieve® and Pervasive.SQL® are registered trademarks of Pervasive Software Inc.

IBM®, Topview™, System i5/System i®/IBM i®, pSeries®, xSeries®, RISC System/6000®, DB2®, WebSphere®, Domino®, and Lotus Notes® are trademarks or registered trademarks of IBM Corporation.

Microsoft®, FrontPage®, Windows™, WindowsNT™, ActiveX™, Exchange™, Dynamics® AX, Dynamics® CRM, SharePoint®, Excel®, and Word® are trademarks or registered trademarks of Microsoft Corporation.

Oracle®, JD Edwards EnterpriseOne®, JD Edwards World®, and OC4J® are registered trademarks of the Oracle Corporation and/or its affiliates.

Google Calendar™ and Google Drive™ are trademarks of Google Inc. Salesforce® is a registered trademark of salesforce.com Inc.

SAP® Business One and SAP® R/3® are registered trademarks of SAP AG in Germany and in several other countries. SugarCRM is a trademark of SugarCRM in the United States, the European Union and other countries.

Linux® is a registered trademark of Linus Torvalds.

UNIX® is a registered trademark of UNIX System Laboratories.

GLOBETrotter® and FLEXlm® are registered trademarks of Macrovision Corporation. Solaris™ and Sun ONE™ are trademarks of Sun Microsystems Inc.

HP-UX® is a registered trademark of the Hewlett-Packard Company. Red Hat® is a registered trademark of Red Hat Inc.

WebLogic® is a registered trademark of BEA Systems.

Interstage® is a registered trademark of the Fujitsu Software Corporation. JBoss™ is a trademark of JBoss Inc.

GigaSpaces, GigaSpaces eXtreme Application Platform (XAP), GigaSpaces eXtreme Application Platform Enterprise Data Grid (XAP EDG), GigaSpaces Enterprise Application Grid, GigaSpaces Platform, and GigaSpaces, are trademarks or registered trademarks of GigaSpaces Technologies.

Clip art images copyright by Presentation Task Force®, a registered trademark of New Vision Technologies Inc. This product uses the FreeImage open source image library. See <http://freeimage.sourceforge.net> for details. This product uses icons created by Axialis IconWorkShop™ (<http://www.axialis.com/free/icons>)

This product includes software developed by the Apache Software Foundation (<http://www.apache.org/>).

This product includes software developed by Computing Services at Carnegie Mellon University (<http://www.cmu.edu/computing/>). Copyright © 1989, 1991, 1992, 2001 Carnegie Mellon University. All rights reserved.

This product includes software developed by the OpenSSL Project for use in the OpenSSL Toolkit (<http://www.openssl.org/>). This product includes software that is Copyright © 1998, 1999, 2000 of the Thai Open Source Software Center Ltd. and Clark Cooper.

This product includes software that is Copyright © 2001–2002 of Networks Associates Technology, Inc All rights reserved. This product includes software that is Copyright © 2001–2002 of Cambridge Broadband Ltd. All rights reserved.

This product includes software that is Copyright © 1999–2001 of The OpenLDAP Foundation, Redwood City, California, USA. All Rights Reserved.

All other product names are trademarks or registered trademarks of their respective holders. Magic xpi Installation

Guide – Magic xpi 4.14

Copyright © 2023–2024 by Magic Software Enterprises Ltd. All rights reserved.

Contents

A システム前提条件	8
システム前提条件	8
開発環境.....	8
実行環境.....	9
1 Magic xpiのインストール	11
インストールの開始	11
ローカルエージェントサポートの追加.....	13
ローカルエージェントの通信とデータ転送の設定	14
ローカルエージェント認証設定.....	14
ウェルカム画面	15
インストール先フォルダ.....	15
インストールタイプ	16
プログラムフォルダの選択	16
機能の選択.....	21
In Memory Middleware パラメータ.....	21
インストール概要	22
インストールウィザード終了	22
インストール後のガイドライン.....	23
言語サポート	24
2 Magic xpi のファイル	25
Magic xpiインテグレーションプラットフォームのファイル.....	25
64-Bit サポート.....	27
3 コンポーネントの設定	28
Azure Service Bus	29
DBTrigger	29
Directory Scanner	29
Domino	29
Dynamics AX 2012	30
Dynamics CRM.....	31
Email	31
Encryption.....	31
Excel	31
Exchange	31



File Archive.....	32
File Management.....	32
File Splitter	32
FTP.....	32
Google Calendar.....	32
Google Drive.....	32
HL7	32
HTTP.....	33
IBM i	33
JD Edwards Enterprise One	33
JD Edwards World	33
JMS.....	34
Kafka	34
LDAP.....	34
Magic xpa Utility.....	34
Microsoft Excel.....	34
Microsoft Word.....	34
MQTT.....	35
MSMQ.....	35
.NET Utility.....	35
Notes DB	35
OData	35
OPC.....	35
REST Client.....	36
RESTful API	36
Salesforce.....	36
SAPB1.....	37
SAP ERP.....	37
ServiceMax.....	37
SharePoint.....	37
Sugar.....	37
TCP Listener.....	38
Validation.....	38
WCF Client.....	38
WebSphere MQ.....	38
XML Handling.....	38
XSLT.....	38
4 Magic xpi ライセンス.....	39

ライセンス管理 39

ライセンスタイプ 40

Magic xpi ライセンスファイルのインストール 41

ライセンス Features 42



A

システム前提条件

Magic xpiをインストールする際のシステム要件は、下記の開発システムおよび実行システムを参照してください。実行システムは実行するプログラムによって、より大きいコンピュータリソースを必要とする場合があります。使用するWindows®オペレーティングシステムは、互換性ガイドに掲載されているOSを使用してください。

リソースが減少するとパフォーマンスが低下する可能性があります。

実行システムについては、アプリケーションの複雑さ、予想されるTPS（Transaction Per Second）や同時実行性によって、追加のリソースが必要になります。

システム前提条件

開発環境

- CPU: 2.66Ghz以上 4コア以上
- メモリー: 16GB以上
- 空きディスク容量: 25GB以上
- オペレーティングシステム: Windows 10 Pro, Windows 11 Pro

IMMを同一環境にデプロイする場合は、WSLが有効である必要あり（クラウド/仮想環境ではWSLが無効の可能性あり）

- Ubuntu 24.04/x LTS（WSL有効時）

実行環境

●Magic xpi 実行環境とIMMを同一Windows環境で実行する場合

- Windows サーバ

- CPU : 2.66GHz以上、8コア以上
- メモリ : 32GB以上
- 空きディスク容量 : 80GB
- オペレーティングシステム

- Windows Server 2022

IMMを同一環境にデプロイする場合は、WSLが有効である必要あり
(クラウド/仮想環境ではWSLが無効の可能性あり)

- Ubuntu 24.04/x LTS, Red hat RHEL 9.4 (WSL有効時)

●Magic xpi 実行環境とIMMを別環境で実行する場合

- Magic xpi : Windows サーバ

- CPU : 2.66GHz以上、4コア以上
- メモリ : 32GB以上
- 空きディスク容量 : 80GB
- オペレーティングシステム : Windows Server 2016, 2019, 2022

- IMM : Linuxサーバ

- CPU : 2.66GHz以上、4コア以上
- メモリ : 16GB以上
- 空きディスク容量 : 80GB
- オペレーティングシステム : Ubuntu 24.04/x LTS, Red hat RHEL 9.4

注:

- 上記はシステムの最低限の前提条件でプロジェクト固有の条件は考慮されていません。
- 上記は他のソフトウェアの実行やコンポーネントの設定等条件を考慮しているものではありません。

最新のシステム要件については、弊社HPの下記URLに記載してあります。

https://devnet.magicsoftware.co.jp/magicxpi/magicxpi_product/magicxpi-system-requirements/



OUTPERFORM THE FUTURE™

1 *Magic xpi*のインストール

この章ではMagic xpi のインストールプロセスの各ステージについて説明します。

- | |
|-------------|
| • インストールの開始 |
| • 言語サポート |

インストールの開始

Magic xpiをインストールする前に以下をご確認ください。：

- インストールを開始するマシンに対して管理者権限があることを確認してください。製品のインストールおよびすべてのサービスの停止と開始には管理者権限が必要です。
- システムがMagic xpi 前提条件を満たしているかを確認します。[\(Appendix A, システム前提条件](#) を参照)。
- Magic xpi は ConfigCollector ツールを導入して、製品のアップグレードをする際に影響を受ける可能性があるすべての重要な構成ファイルのバックアップを作成します。このツールは、<Magic xpi installation>%Tools%ConfigCollector フォルダーの下にあります。稀に、インストーラが構成ファイルを変更する可能性があるため、新しいバージョンに移行/アップグレードする前に、構成ファイルをバックアップすることをお勧めします。
- .NET Framework 4.0 がコンピュータにインストールされていることを確認してください。



i Magic xpi をスペースを含むフォルダーにインストールする際は、8dot3name サポートを有効にしておかなければなりません。

インストールする前に、8dot3nameが有効かどうかを確認してください。確認するには、Administrator権限でコマンドプロンプトを開き、以下のコマンドを実行します。:

fsutil 8dot3name query <インストールしようとするドライブ>

例えば、CドライブにMagic xpiをインストールする場合は、次のコマンドを実行します。:

fsutil 8dot3name query c:

fsutil ユーティリティは C:¥Windows¥system32に存在します。もしコマンドが見つからない場合は、まず、 system32 フォルダーに移動してください。

コマンドの結果であるボリューム状態が0 (8dot3名の作成は有効です)で、レジストリの状態が既定値の2(ボリューム単位で設定します), なら8dot3nameは有効でインストールを続行することができます。

8dot3nameが有効でない場合、Administrator権限で以下のコマンドを実行します。:

fsutil 8dot3name set <インストールしようとするドライブ> 0

例えば、Cドライブに対し8dot3name を有効にするなら、次のコマンドを実行します:

fsutil 8dot3name set c: 0

設定を有効にするためにコンピュータの再起動が必要になる場合があります。

http://en.wikipedia.org/wiki/8.3_filename

OpenJDK は Magic xpi インストーラの一部として含まれており、インストール中に 32 および 64 の JDK の場所を選択する必要はなくなりました。

これでMagic xpi のインストールを行うことができます。

ローカルエージェントサポートの追加

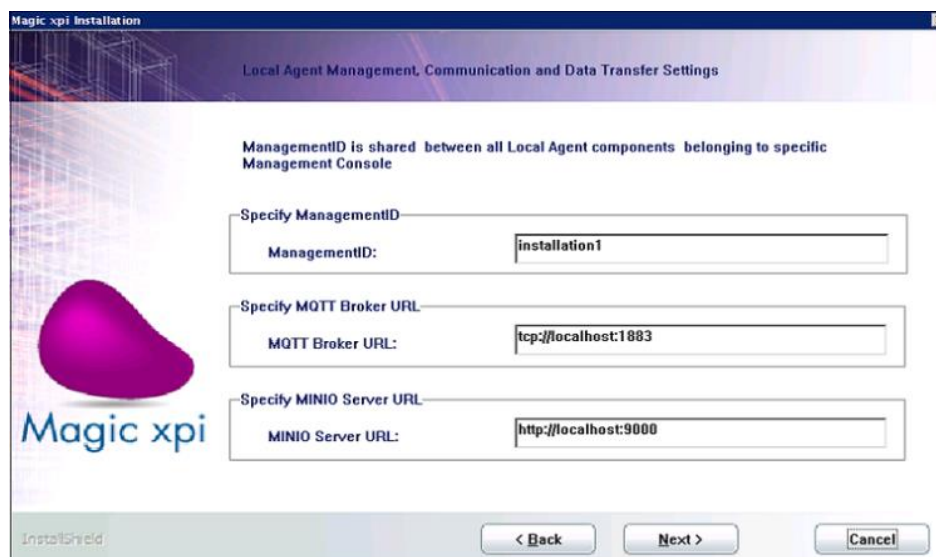
ローカル エージェント サポートを Magic xpi に追加するには、次のように Magic xpi セットアップを実行します。Magic xpi インストールウィザードを実行すると、ウェルカム画面が表示されます。

--localagent option.

これを行うには、setup.exe ファイルが含まれているフォルダーを開きます。この場所からコマンド ウィンドウを開き、setup.exe の後に --localagent コマンドを追加します。

<Path of setup.exe>%setup.exe --localagent

これにより、インストールの実行中に次の 2 つの追加画面が表示され、ローカル エージェント関連の設定を行うことができます。



インストールが完了すると、インストーラによって MAGIC_LA という名前のセクションが magic.ini ファイルに追加され、ユーザはこのセクションでローカル エージェント関連の Magic xpi サーバ設定を設定できます。

サーバ設定に関連するすべてのパラメータの詳細については、Magic xpi ヘルプ ファイルの「Magic xpi サーバ設定」トピックを参照してください。

i この機能はWindowsの場合にのみサポートされます。



ローカルエージェントの通信とデータ転送の設定

ローカル エージェントの実行に必要な通信プロトコルの詳細を入力します。次の情報を入力する必要があります。

- **Management ID** : これは特定の管理コンソールに属するすべてのローカル エージェント コンポーネント間で共有されます。
- **MQTT Broker URL** : これはローカル エージェントコンポーネントと Magic xpi サーバ間の通信媒体として使用されます。MQTT ブローカーはローカル マシン上で実行されている必要があります。MQTT ブローカーのデフォルトのエンドポイント URL は tcp://localhost:1883 です。MQTT ブローカーが別のアドレスで実行されている場合は、それに応じて情報を入力します。
- **MINIO Server URL** : これはメッセージの転送、ログの収集、ローカル ネットワーク内のコネクタの更新に必要なデータを永続的または一時的に保存するために使用されます。MINIOサーバはローカル マシン上で実行されている必要があります。MINIOサーバエンドポイント URL のデフォルト値は http://localhost:9000 です。MINIOサーバが別のアドレスで実行されている場合は、それに応じて情報を入力します。

ローカルエージェント認証設定

クラウドへの接続に使用する認証設定の詳細を指定します。

認証情報を指定するには、「基本認証」チェックボックスを選択します。 認証部分をスキップするには、チェックボックスをオフにします。クラウド認証を行うため、以下の情報を入力します。

- **ユーザ名** : クラウドに接続するユーザ名を入力してください。
- **パスワード** : クラウドに接続するパスワードを入力してください。

ウェルカム画面

Magic xpi インストールウィザードを実行すると、**ウェルカム画面**が表示されます。

次へボタンをクリックすると**使用許諾契約画面**が表示されます。内容を詳細にご確認の上、契約に同意する場合は**次へ**ボタンをクリックすると、ソフトウェアメンテナンス契約画面が表示されます。内容を詳細にご確認の上、契約に同意する場合は**次へ**ボタンをクリックし、**インストール先選択画面**を表示します。

- i** 旧バージョンのxpiがインストールされている場合、Magic xpi 4.14.1は新規にインストールすることはできません。旧バージョンがインストールされている場合はアップグレードされることになります。
- 旧バージョンのアップグレード中は、旧バージョンはバックアップされません。
- アップグレード後は旧バージョンにロールバックすることができず、アクティビティログも失われます。アクティビティログのバックアップを作成することをお勧めします。バックアップ用バッチファイルは以下にあります。

Magic xpi

4.14.1¥InMemoryMiddleware¥deploy¥act_log_dump¥act_log_batchup.bat

- 現在のバージョンをアップグレードする前に、構成ファイルをバックアップすることをお勧めします。これを行うには、
<Magic_xpi_installation>¥Tools¥ConfigCollector からスクリプトを実行してください。
- アップグレード後に IMM を再デプロイする必要があります。

インストール先フォルダ

インストール先選択 画面でMagic xpi をインストールするフォルダーまたはディレクトリを入力します。デフォルトではMagic xpi はC:¥Magic xpi x.x フォルダにインストールされます。このディレクトリにインストールするには、**次へ**をクリックします。Magic xpiを別の場所にインストールする場合は、**参照**をクリックして必要な場所を選択します。インストールウィザードで選択を確認するメッセージが表示されます。**次へ**をクリックして次の画面に進みます。

そして誰がアプリケーションを使用できるのかを指定します。次のいずれかのオプションを選択します。:

- このコンピュータの全てのユーザ
- 現在ログインしているユーザのみ (Administrator)



- Magic xpi を空のフォルダーにインストールする必要があります。

次へをクリックし、**セットアップタイプ**画面を開きます。

インストールタイプ

この画面で、以下のセットアップタイプを選択します。:

- **標準(推奨)**: このオプションを選択すると、Magic xpiインストール用のショートカットフォルダが自動的に作成されます。また、[機能の選択](#)画面に表示されるすべての機能は、デフォルトでインストールされます。
- **カスタム**: このオプションを選択すると、[プログラムフォルダの選択](#)画面が開きます。必要なフォルダ名を選択すると、[機能の選択](#)画面が表示され、インストールする機能を選択することができます。

プログラムフォルダの選択

この画面では、**プログラム**メニューに表示されるMagic xpi ショートカットの名前を入力することができます。デフォルトの名前が表示され、これを変更することができます。選択したプログラムフォルダがすでに存在する場合は、新しいショートカット名を入力するかどうか尋ねられます。**Yes**を選択すると、プログラムフォルダを変更できます。**No**を選択すると、選択したプログラムフォルダが既存のプログラムフォルダを置き換えます。この画面は、Setup Type画面でCustomを選択した場合にのみ使用できます。この画面は [セットアップタイプ](#) 画面で**カスタム(Custom)**を選択した場合にのみ使用できます。

次へをクリックして**機能の選択**画面を開きます。



機能の選択

この画面ではインストールするMagic xpiの機能を決定します。機能は以下の通り：

- **Server**：統合プロジェクトを実行するMagic xpi サーバ。
- **Studio**：コンポーネントツールキットを含むMagic xpiスタジオ。
- **xpi Web Server**：デプロイ中に Web サービスフレームワーク機能を提供する xpi Web サーバー。
- **Sample Projects**：さまざまなMagic xpi の機能を理解するのに役立つ一連のサンプルプロジェクトをインストールします。
- **Requesters**：Java および .NET リクエストをインストールします。

この画面は、[セットアップタイプ](#) 画面で**カスタム (Custom)**を選択した場合、または既存のインストールを変更する場合にのみ使用できます。

In Memory Middleware パラメータ

この画面では、IMM ホストの詳細を指定します。 次の詳細が必要です。

インメモリーミドルウェア詳細をスキップ

このオプションを選択すると、IMMの構成やインストールをスキップします。プロジェクトを作成したりデバッグを開始する際には、デプロイされたIMMの詳細を設定する必要があります。

既存のインメモリーミドルウェアの詳細を入力

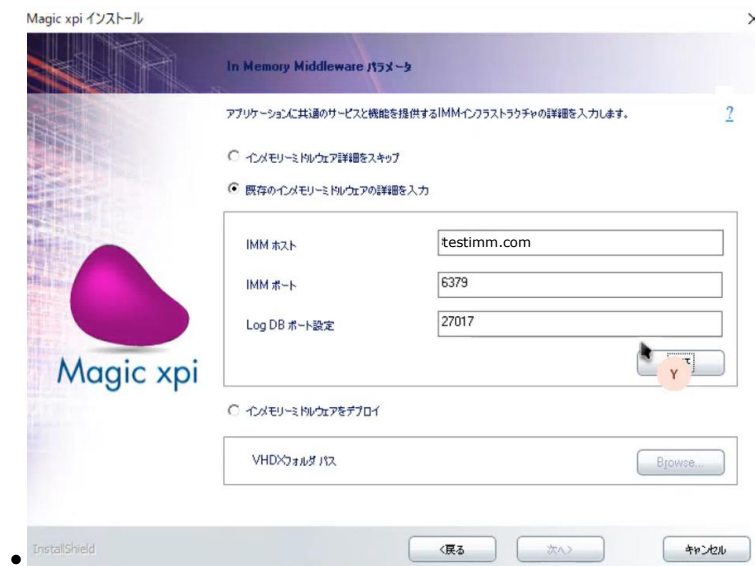
- **IMM ホスト**：IMM サービスが実行されているマシンのドメイン名を指定します。
- **IMM ポート**：IMM がリスニングしているポートを指定します。よくわからない場合は、ポート値を 6379（デフォルト）のままにしておきます。
- **Log DB ポート設定**：ログ DB がリスニングしているポートを指定します。よくわからない場合は、ポート値を 27017（デフォルト）のままにしておきます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

インメモリーミドルウェアをデプロイ

- 本バージョンでは、VHDXタイプのIMMを提供しません。このオプションは選択しないようにしてください。



インストール概要

「インストール概要」画面には、Magic xpi インストールウィザードで Magic xpi をインストールする準備ができていていることが示されます。インストール設定を変更する必要がある場合は、「戻る」をクリックして前の画面に戻ります。準備ができたなら、「次へ」をクリックしてインストールプロセスを開始します。

インストールウィザード終了

インストール ウィザードがインストールを正常に完了すると、[インストールの完了] 画面が開きます。この画面には以下の 3つのチェックボックスがあります。

- インストールを終了して、Readme Noteファイルを表示します
- インストールを終了して、Magic xpi スタジオを開始します。

終了をクリックしてインストールを終了します。

i

- ・ Windows 10 マシンに Magic xpi をインストールする場合、Studio の起動時に次のエラーが表示される場合があります。1つ以上のコンポーネントが見つかりません。アプリケーションを再インストールしてください。これを解決するには、次の URL から Microsoft Visual Studio 2010 Shell (Isolated) Redistributable Package をインストールします。
<http://www.microsoft.com/en-us/download/details.aspx?id=1366>
- ・ Magic xpi 4.14 を既存の xpi バージョンとともにインストールした後、基本バージョンまたは古いバージョンをアンインストールすると、ファイルと拡張子が関連付けられます。オペレーティング システムの mgxpiproj と .sln は失われます。xpi Studioを再度起動すると、関連付けが再び確立されます。
- ・ Magic xpi の古いバージョンのサービスはすべて停止され、これらのサービスのスタートアップの種類は手動に設定されます。サービスは、一度にいずれかのバージョンで実行する必要があります。
- ・ Magic xpi 4.14.1のインストール後にMagic xpi 4.14をインストールすることはできません。

インストール後のガイドライン

1. Windows Server ホストで作業している場合、最初に管理者権限で Studio を開きます。この後、スタジオは通常の権限で開始できます。
2. 場合によっては、インストーラがデスクトップ ショートカット フォルダへの書き込みアクセス許可を付与できないことがあります。 その場合、このフォルダ内にショートカットを作成できません。

この問題を解決する場合、次のコマンドを使用して必要な権限を付与するよう管理者に依頼してください。

```
cacls "c:¥PathToDesktopFolder" /T /C /E /G Users:F
```

例,

```
cacls "c:¥%USERPROFILE¥Desktop¥Magic xpi 4.13.x" /T /C /E /G Users:F
```

または

```
cacls "c:¥Users¥public¥Desktop¥Magic xpi 4.13.5" /T /C /E /G Users:F
```

インストール時に「このコンピュータを使用する全てのユーザ（全てのユーザ）」を選択した場合、ショートカットフォルダは「C:¥Users¥Public」フォルダの下に作成されます。



言語サポート

英語以外の文字をビジネスプロセス、フロー、ステップの名前および説明の中で使用することができます。プロジェクト、リソース、サービス、変数の名前は、英語の文字またはマシンの言語でのみ記述できます。

Magic xpi日本語版のデフォルト言語は日本語です。他言語での使用はサポートされていません。以下の設定を確認します。:

- **Magic. ini** ファイルのConstFileパラメータ。例えば、日本語の設定では以下のようになります。:
`ConstFile =C:\¥Magic xpi x.x¥Runtime¥Magic xpa¥mgconstw.chn`
- **Magic. ini** ファイルのExternal Code Page の設定(日本語は932)
- **コントロール パネル > 地域と言語オプション > 形式**
- **Unicode対応でないプログラムの言語のシステムロケール** プロパティはコントロールパネルの**地域と言語設定の管理**タブにあります。

2 *Magic xpi* のファイル

この章では、さまざまな Magic xpi モジュール用にインストールされるファイルについて説明し、Magic xpi ファイルを秩序正しく論理的な方法で管理するのに役立つ重要な情報を提供します。

Magic xpi インテグレーションプラットフォームのファイル

Magic xpi インテグレーションプラットフォームのインストールには、スタジオ、コンポーネント、サーバ、およびモニターモジュールを含むすべての Magic xpi インテグレーションプラットフォームの全ファイル、および Magic Software の Magic xpa アプリケーションプラットフォームのフルインストールが含まれています。



OUTPERFORM THE FUTURE™

以下の表はMagic xpi ルート フォルダ配下の各フォルダの内容を説明したものです。

フォルダ	内容
Extra	サンプルプロジェクトを含むサブフォルダ。
Help	Magic xpi ドキュメントフォルダ。
InMemoryMiddleware	ミドルウェア関連の実行ファイルと構成ファイル
Runtime フォルダー配下:	
addon_connectors	ユーザ定義コンポーネントがこのフォルダに作成されます。
config	スペースの設定およびプロジェクトを実行するための各種設定ファイル。
Icons	Magic xpi コンポーネントが使用する画像がすべて格納されています。コンポーネントを開発した際は、このフォルダに画像を追加してください。
ifclib	各コンポーネントのソースファイルが格納されています。各コンポーネントはコンポーネントと同じ名称の別個のフォルダに格納されています。このフォルダ配下のファイルはMagic xpiスタジオでコンポーネントの設定時に使用されます。
java	Magic xpi JavaクラスとJARファイルが格納。
Logs	プロジェクト実行時に作成されるログファイルが格納されます。
scripts	Web関連スクリプトが格納されています。Webエイリアスがこのフォルダを参照しています。後述の64-Bit サポート セクションを参照してください。
Temp	Magic xpiが動作時に使用する一時ファイル格納先。
Magic xpa フォルダー配下:	
Gateways	データベースゲートウェイ
Messaging	メッセージキューに使用するファイル

i Magic xpiをインストールするとシステムのCommon Filesフォルダー配下の**Magic xpi**フォルダーにいくつかのファイルを保存します。このフォルダーを削除してはいけません。

64-Bit サポート

Magic xpiをインストールすると、32ビットのリクエスター DLLが**scripts**フォルダーにインストールされます。さらに **32bit**、**64bit** の2 つのサブフォルダーが作成され、それぞれのDLL が格納されます。



OUTPERFORM THE FUTURE™

3

コンポーネントの設定

この章ではコンポーネントのセットアップ要件について説明します。

- Azure Service Bus
- D365 Business Central
- D365 Finance & Operation
- DBTrigger
- Directory Scanner
- Domino
- Dynamics AX 2012
- Dynamics CRM
- EDI
- Email
- Encription
- Excel
- Exchange
- File Archive
- File Management
- File Sprit
- File Watcher
- FTP
- Goole Calendar
- Google Drive
- HL7

- Matics
- Microsoft Excel
- Matics
- Microsoft Excel
- Microsoft Word
- MQTT
- MSMQ
- .NET Utility
- Notes DB
- OData
- OPC
- REST Client
- RESTful API
- Salesforce
- SAPB1
- SAP ERP
- ServiceMax
- Sharepoint
- Sugar
- TCP Listener
- Validation



• HTTP
• IBM i
• JD Edwards Enterprise One
• JD Edwards Worlds
• JMS
• Kafka

• WCF Client
• Web Services
• WebSphere MQ
• XML Handling
• XSLT
•

Azure Service Bus

Azure Service Busと通信するアクセス権限が必要です。

DBTrigger

DBTrigger コネクタを使用するには、JDBC JAR ファイルを
Runtime/java/DatabaseDriver フォルダーにコピーする必要があります。

Directory Scanner

特別な準備は必要ありません。

Domino

【クライアントAPI 使用時： V5.5 以降をサポート】

Domino コンポーネントを使用するには**Lotus Notes** クライアント VR5.5以降がマシンにインストールされていなければなりません。加えて以下の情報を取得しておく必要があります。：

- Notesサーバ名
- Notesデータベース名とパスワード

Dominoコンポーネント使用前に以下を実行/確認してください：

- **Notes.jar** ファイルの完全パスをWindowsの環境変数CLASSPATHに追加する必要があります。この .jar ファイルはLotus Notesクライアントのインストールフ。

フォルダ配下に存在しています。

【サーバAPI 使用時： V5.5 以降をサポート】

サーバAPI を使用するには、DominoサーバとHTTP 及びIIOP で通信が可能な状態になっている必要があります。Dominoサーバの設定方法につきましては、IBM社 のサイトをご確認下さい。

Dominoコンポーネント使用前に以下を実行/確認してください：

- DominoサーバとHTTP 及びIIOP で通信が可能な状態になっている場合、以下のURL がブラウザで参照可能となっているはずです。
- <http://DominoServerName:63148/diioptior.tx>
- NCS0.jarファイルを<Magic xpiインストール先>%Runtime%Java%libにコピーします。この.jarファイルはLotus Notesサーバのインストールフォルダに存在しています。

【クライアントAPIとサーバAPIの違いについて】

- ・ クライアントAPI の場合
UserID : NotesClnet のID ファイルのフルパスを指定します。
RemoteAccess : No を指定します。
- ・ サーバAPI の場合
UserID : Notes のユーザ名を指定します。（例） MAGIC TEST/MSJ
RemoteAccess : Yes を指定します。

Dynamics AX 2012

Magic xpi スタジオおよびMagic xpiサーバでDynamics AX 2012コネクタを使用するには、コンピュータに.NET Framework 4.5.1以降がインストールされている必要があります。コネクタで使用するサービスは、Dynamics AXサーバ上のApplication Integration Framework (AIF) の受信ポートとして最初に定義する必要があります。

りません。



Windows SDK 8.1以降を開発時に使用するコンピュータにインストールする必要があります。これは開発時には必須ですが、サーバでの実行時には必須ではあ

Dynamics CRM

Dynamics CRMコネクタを使用するには、有効なDynamics CRMアカウントが必要です。技術的な前提条件はありません。追加のjarファイルは必要なく、クライアントのインストール也不需要です。

Email

Email コンポーネントを使用してメール サーバにアクセスするには以下の情報が必要です。:

- **SMTP / POP3 / IMAP** サーバのアドレス
- それぞれのサーバのユーザ名とパスワード

Encryption

特別な準備は必要ありません。

Excel

xpiスタジオでフローを作成する際、Excelのワークブックを使用するため、Microsoft Excelがインストールされている必要があります。実行時にはExcelは必要ありません。

Exchange

Exchangeコネクタを使用するには、以下の情報が必要です。:

- Exchangeアカウント
- 有効なユーザ名
- 有効なパスワード

File Archive

特別な準備は必要ありません。

File Management

特別な準備は必要ありません。

File Splitter

特別な準備は必要ありません。

FTP

特別な準備は必要ありません。

Google Calendar

Googleカレンダーコンポーネントを使用するには、OAuth 2.0認証フローを完了する必要があります。詳細は、*Magic xpi*ヘルプの「*OAuth 2.0 Authorization*」トピックを参照してください。

Google Drive

Googleドライブコンポーネントを使用するには、OAuth 2.0認証フローを完了する必要があります。詳細は、*Magic xpi*ヘルプの「*OAuth 2.0 Authorization*」トピックを参照してください。

HL7

特別な準備は必要ありません。

日本ではサポートされません。

HTTP

HTTP コンポーネントの使用およびプロキシ サーバを使用してWeb サイトにアクセスするには**Magic. ini**ファイル内[MAGIC_ENV] セクションの以下の行を設定する必要があります。:

HTTPProxyAddress = <ProxyAddress>:<Port>

- ・ 例: 10.9.3.16:8080

HTTPTimeout = <Timeout>

- 例: 5000

i Magic xpi フロー内でトリガーとして使用するにはWebサーバが必要です。

IBM i

IBM iコネクタを使用してIBM iサーバにアクセスするには、Magic xpiホスト・ライブラリーをIBM iサーバにインストールする必要があります。

JD Edwards Enterprise One

JDEコネクタを使用するには「JDE Dynamic Java connector」が必要です。この「JDE Dynamic Java connector」がMagic xpi がインストールされているコンピュータ上で正しく設定され、正しく動作していなければなりません。JDE のインストーラーが提供するJDE Dynamic Java connector のサンプルプログラムを用いてテスト/ 確認を行うことができます。

JD Edwards World

JDE World コネクタを使用するには、DB2/400 データベースサーバにアクセスできる必要があります。



JMS

JMSコンポーネントを使用するには、JNDI (Java Naming and Directory Interface) を使用してスタンドアロンJavaクラスからJMSサーバーに接続する必要があります。スタンドアロンクラスで使用されているのと同じパラメータとJarをMagic xpi JMS設定に使用することもできます。

Kafka

Kafkaコネクタを使用するには、Kafkaサーバーが有効であることと、そのセキュリティのSSLおよびSASLの有効/無効を確認してください。

LDAP

特別な準備は必要ありません。

Magic xpa Utility

特別な準備は必要ありません。

Microsoft Excel

Microsoft® Excel コンポーネントを使用するには、Magic xpi がインストールされたコンピュータ上にMicrosoft® OfficeXP 以降、あるいはExcel 2002 以降がインストールされている必要があります。

このコンポーネントを使用するにはMicrosoft Excel に関する知識も必須です。リリースノートの「既知の問題と使用上の制約」を必ずご覧ください。

Microsoft Word

Microsoft® Word コンポーネントを使用するには、Magic xpi がインストールされたコンピュータ上にMicrosoft® OfficeXP 以降、あるいはWord 2002 以降がインストールされている必要があります。

このコンポーネントを使用するにはMicrosoft Word に関する知識も必須です。リリースノートの「既知の問題と使用上の制約」を必ずご覧ください。

MQTT

MQTTコネクタを使用するには、MQTTサーバにアクセスする必要があります。

MSMQ

MSMQ コンポーネントを使用するには、使用するコンピュータにMSMQ サービスがインストールされていなければなりません。またMSMQ コンポーネントを使用してアクセスするキューも定義されていなければなりません。

.NET Utility

.NETユーティリティを使用したMagic xpi プロジェクトを実行するには、.NET framework がインストールされている必要があります。

.NETユーティリティのソースコードを編集するには、Microsoft Visual Studio .NET を別途購入する必要があります。

Notes DB

- **DOMINO**の項をご参照ください。

OData

特別な準備は必要ありません。

OPC

特別な準備は必要ありません。



OUTPERFORM THE FUTURE™

REST Client

RESTクライアントコンポーネントをプロキシサーバーで使えるようにするには、以下を変更します。

Magic. iniファイルの[MAGIC_ENV]セクションの次のエントリ：

- HTTPProxyAddress = <ProxyAddress>:<Port>

例：10.9.3.16:8080

プロキシサーバーのアドレスは、プロキシサーバーを使用しているユーザーのみが設定する必要があります。

RESTクライアントコンポーネントのTimeoutを更新するには、Magic. iniファイルの[MAGIC_ENV]セクションにある次のエントリの値を変更します。 タイムアウトのデフォルト値は0です。

ここでは、デフォルト値0は120秒として扱われます。

- HTTPTimeout = <Timeout>

例：5000

RESTful API

特別な準備は必要ありません。

Salesforce

Salesforceコネクタを使用するには、以下を所有している必要があります。：

- Magic xpi salesforce.com ライセンス。
- OAuth認証手続きを行うためのSalesforceの有効な資格情報。



SAPB1

SAPB1 コネクタを使用するには以下が同一ネットワーク上にインストールされている必要があります。:

- SQLデータベース
- SAP Business One server tools
- SAPB1 Data Interface API

SAPB1コネクタはSAP Business One 2004, 2005, 2007, 8.8, 9.xをサポートします。

SAP ERP

SAP ERPコネクタを使用するには、SAP ERPに関する完全な知識があり、機能しているSAP ERPシステム（4.6以降）にアクセスできる必要があります。

ServiceMax

ServiceMaxコネクタを使用するには、以下を所有している必要があります。:

- Magic xpi ServiceMaxライセンス
- OAuth認証手続きを行うためのSalesforceの有効な資格情報。

SharePoint

SharePointコネクタを使用するには、SharePointサーバにアクセスする必要があります。

Sugar

Sugarコネクタを使用するには、Magic xpi Sugarライセンスを購入する必要があります。技術的な前提条件はありません。



TCP Listener

特別な準備は必要ありません。

Validation

特別な準備は必要ありません。

WCF Client

Magic xpi スタジオおよびサーバ実行時にWCF Clientコネクタを使用するには、コンピュータに .NET Framework 4.5以上がインストールされている必要があります。

Windows SDK 8.1以降を開発時に使用するコンピュータにインストールする必要があります。これは開発時には必須ですが、サーバでの実行時には必須ではありません。

Magic.ini ファイルに **SVCUtil**, **SvcConfigEditor**, **DotNetCompiler** フラグを設定する必要があります。

WebSphere MQ

Magic xpi WebSphere MQ コンポーネントを使用するには、Magic xpi がキューにアクセスできるよう、ネットワーク内にWebSphere MQ サーバと使用するコンピュータにクライアント ソフトウェアがインストールされていなければなりません。

XML Handling

XML Handlingコンポーネントを使用するには、XML の動作に関する基本的な知識が必須です。

XSLT

特別な準備は必要ありません。



4

Magic xpi ライセンス

この章では、Magic xpiライセンスとその管理方法について説明します。

ライセンス管理

Magic xpi は各製品毎に個別のライセンスが必要です。:

ライセンス	説明
Studio	このライセンスでは以下を行うことができます。: <ul style="list-style-type: none">• Magic xpi スタジオの起動• Magic xpi プロジェクトの開発• デバッガでのプロジェクトのデバッグ
Server	このライセンスにより、Magic xpi Server を実行できるようになります。ライセンスは、Windows オペレーティング システムと Windows 以外のオペレーティング システムで異なります。 デフォルトの Magic xpi インストールには、サーバー ライセンスの評価版が含まれています。



ライセンスタイプ

Magic xpi のライセンスファイルに定義されているライセンスは下記の通りです。

ライセンス	説明
IBNPSTD	Magic xpiスタジオのライセス。
IBNPSRV	テスト用Magic xpi サーバ ライセンス。このライセンスでは24時間以上Magic xpi サーバを連続稼動させることはできません。
IBPRSRVI	本稼動用Magic xpi サーバ ライセンス
IBMON	Magic xpi モニタライセンス



***Magic xpi* ライセンスファイルのインストール**

ユーザ登録用紙をMagic Software Japan K.K. に送付あるいはユーザ登録サイトより必要情報を入力すると、e メールにてライセンスがファイル（以下ライセンスファイル）としてお客様に送付されます。

ライセンスファイルをインストールするには：

2. メールにて送付されたライセンスファイル(License_XXXXXXX.dat : XXXXXXXはシリアル番号) を適当なフォルダーに保存します。
3. License_XXXXXXX.dat ファイルを**License.dat** に改名します。
4. Magic xpi インストールフォルダに**License.dat** ファイルをコピーします。
5. 以下のいずれかのライセンスがサーバのifs.ini ファイルの
[MAGIC_ENV]LicenseName セクションに設定されていることを確認します。
 - **IBPRSRVI**
 - **IBNPSRV**

.iniファイルのライセンス名がライセンス自体のライセンス名と一致しない場合は、関連するログファイルに次のエラーが表示されます。：

“Failed to set the license file parameters.”



OUTPERFORM THE FUTURE™

ライセンス Features

以下のライセンスは個別に発行され、別売商品として別途購入が必要な場合があります。ライセンス ファイルがメールで届いたとき、購入したアダプタ/コネクタのライセンスが正しく含まれているかを確認してください。

License	Description
IBDYCRM	Dynamics CRMアダプタのライセンス(別売)。
IBHL7	HL7アダプタのライセンス(別売)。日本語版では非サポート
IBJDE	JDE E1アダプタのライセンス(別売)。
IBNotes	DOMINOおよびNotesDBアダプタを使用するためのライセンス。
IBR3	SAP R/3アダプタのライセンス(別売)。
IBSBO	SAP Business Oneアダプタのライセンス(別売)。
IBSFDC	Salesforceアダプタのライセンス(別売)。
IBSHAREP	SharePointアダプタのライセンス(別売)。
IBSystemi	IBM i アダプタおよびDataMapperでDB2/400にアクセスするためのライセンス。
IBEXCHANGE	Exchange 2007アダプタのライセンス。
IBJDEWRLD	JD Edwards Worldアダプタのライセンス(別売)。
SERVICEMAX	ServiceMaxアダプタのライセンス(別売)。
SUGCRM	Sugarアダプタのライセンス(別売)。
D365BC	D365 Business Centralアダプタのライセンス(別売)。
DYNAX	Dynamics AXアダプタのライセンス(別売)。

注：上記のライセンスはMagic xpi サーバでを実行する際にチェックされます。
Magic xpi スタジオでの開発時にはすべてのアダプタを使用することができます。



OUTPERFORM THE FUTURE™